

学融合推進センター News Letter 第8号

The Center for the Promotion of Integrated Sciences (CPIS)

May/2012

学融合推進センター 平田光司 新センター長よりご挨拶

本年4月から学融合推進センター(推進センター)長を拝命しました。

センターの目標である学融合の推進とは、言うまでもなく、総研大の持つ膨大な知的資産を活用し、異分野間の協力によって新しい研究分野を創出、それを教育に活かし、広い視野を持った研究者を養成することです。これはつまり総研大の開学の理念そのものではないでしょうか。推進センターの任務は総研大開学とほぼ同時に創設された教育研究交流センター(交流センター)のものを引き継いでいます。学生セミナー、国際シンポジウム、サマースクール、共同研究事業、湘南レクチャー(現、総研大レクチャー)、JSPS サマープログラムなど、現在推進センター事業の要となっているものはすべて交流センターで始められたものです。研究に特化した葉山高等研究センターを経て再度、研究事業、教育事業、交流事業を統合すべく現在の推進センターとなりました。

推進センターにおける活動は交流センターに比べ規模も多様性も増大しています。このため、あたかも、互いに独立した事業の集合のように見えるかもしれません。しかし、本来、さまざまな事業が学融合を推進するという目的のために有機的に計画されているべきものです。そのため多少の整理も必要と思われる。ベースとなるのは教員、学生が分野を超えて知り合い、交流を深めることです。それが推進センターの最も重要な機能でしょう。例えば、学生セミナーで知り合った学生同士が、その後も交流を続け、新しい分野を切り開くようなことが望ましい方向と考えています。教員同士の交流から新しい研究事業、教育事業が生まれることも期待されます。そのための機会を推進センターが提供します。特に昨年度完成した学融合推進センター棟が、このような交流の基地となるように工夫したいと考えています。

もちろん交流を深めることは第一歩にすぎません。新分野を切り拓くような共同研究や、学生の視野を大きく広げる教育事業が創出されるためには、それなりの仕掛けも必要となると思われます。そのような事業を考案、実施し、ノウハウを蓄え改良していくことも推進センターの任務と思っています。

池内初代センター長の成果を継承しつつ、皆様の支持とご協力のもとに、センターをさらに良いものにできますよう努力する所存です。

平成24年5月

学融合推進センター長 平田 光司

学融合推進センター 池内了 前センター長からのメッセージ

「センター長を退任するに当たって」

学融合推進センターが発足する以前は「葉山高等教育センター」であり、大きな研究課題を掲げて共同研究を公募する活動に特化していた。それでは総研大の「教育・研究の拠点」としての役割が果たせないというわけで、2年前に研究事業に加えて交流事業、教育事業、基盤整備事業の4事業を統合的に推進することを目的として学融合推進センターとして衣替えしたのであった。

この2年間は移行期ということもあり、センターの専任教員の自主性に任せてスムーズに事業が継続されることに専心した。つまり、センター長としては何もしていないに等しく、ただ見守っていただけと言われても返す言葉がない。しかし、一気に最初から

なにもかも行なおうとして躓くのは拙いと考えたのは事実である。幸い、4つのセンター事業がきちんと位置づけられ、軌道に乗ったことは確かで、この辺りで新しい試みを始める期が熟したと言える。その意味でもセンター長が交代する潮時であった。

私が苦慮したのは、センター専任教員はすべて有期雇用であり、任期後のキャリアパスを考えるとセンター活動のみに従事することへの是非であった。（そのことは今でも苦慮している。）自分の専門の研究を維持しつつ、センター業務もこなしていく困難さをどう克服していくか、今後センターにとって重要な課題となるのではないかと考えている。

池内 了

学融合教育事業からのご報告

<学融合教育事業の活動内容>

本学の教育理念は、各専攻が置かれている基盤機関の人的・研究環境を活かした専門的な大学院教育を行うと同時に、各専攻が連携することにより広い学際的視野を併せもつ研究者を育成するための総合的教育を推進することにあります。学融合教育事業では、その理念を実現するために、公募により教育事業を募り、各事業が効果的に実施されるための支援活動を行っています。

平成24年度の教育事業（事業区分及び採用プログラム）は以下の内容で決まりました。採択の基準は事業区分により若干異なりますが、共通するのは本学の教育理念をいかに具体的に展開できるのかという点です。応募の傾向としては、学際的な教育の推進、その際に必要とされるコミュニケーション能力の習得、現代社会における科学のあり方を問い直す教育などが挙げられます。事業の成果は（過去のものも含め）順次、ホームページにて公開していきます。

平成24年度採用事業一覧

申請事業区分	プログラム名称	専攻	申請代表者	
各専攻・各研究科横断型教育事業	次世代研究者育成教育プログラム	文化科学研究科連携事業	地域文化学	塚田 誠之
		アジア冬の学校	天文科学	小久保英一郎
		生命科学リトリート	生命共生体進化学	五條堀 淳
	国際的研究リーダー育成プログラム	国際的プレゼンテーション能力強化プログラム	構造分子科学	信定 克幸
		体験留学プログラム (旧サマーリサーチプログラム)	遺伝学	鈴木 えみ子
		総研大生が主導する科学英語カリキュラム：大学改革の強化推進にむけて	遺伝学	平田 たつみ
		実践的な討論英語力養成を旨とした進化的行動神経科学ワークショップ	生命共生体進化学	蟻川 謙太郎
	国際的プレゼンテーションスキル開発教育	生命共生体進化学	印南 秀樹	
全学交流型事業	海外総研大レクチャー	The 7th Asian Winter School on Strings, Particles and Cosmology	素粒子原子核	北澤 良久
	総研大レクチャー	日本歴史研究の方法A－資料調査法－	日本歴史研究	大久保 純一
		日本歴史研究の方法B－地域研究の方法－	日本歴史研究	小池 淳一
		日本歴史研究の方法C－博物館とは何だろう－	日本歴史研究	村木 二郎
		科学技術倫理と知的財産権	メディア社会文化	児玉 晴男

		科学コミュニケーション	加速器科学	森田 洋平
		科学における社会リテラシー	生命共生体進化学	平田 光司
		プレゼンテーションセミナー 2013	メディア社会文化	三輪 眞木子
		学術映像の基礎－みる・つくる 2012	学融合推進センター	村尾 静二
学生企画事業	学生企画による 教育研究プロジェクト	GakuSay Net 大学院生交流会	極域科学	小島 本葉
		研究に関する情報の保護と利活用を考える会	遺伝学	高橋 明大

(文責：学融合推進センター 助教 村尾静二)

学融合推進センター その他の事業予定

5月から8月にかけて現在のところ予定されている事業は以下の通りです。各事業の詳細・実施状況につきましては本学のホームページに掲載される予定です。是非とも、ご確認ください。

総合研究大学院大学 HP：<http://www.soken.ac.jp/event/index.html>

- 総研大レクチャー「科学コミュニケーション」 5月18日(金)～20日(日)
開催場所：基礎生物学研究所 *申し込みは5月8日に締め切りました
- 学融合研究事業 ヒアリング審査 5月23日(水)
開催場所：TKP ガーデンシティ品川
- 第6回実践的大学院教育研究会 ～参加型プラットフォームを考える～ 6月8日(金)
開催場所：地球環境パートナーシッププラザ
- JSPS サマープログラム・オリエンテーション 6月13日(水)～19日(火)
開催場所：葉山キャンパス
- 総研大レクチャー「国際コミュニケーション」 6月13日(水)～15日(金)
開催場所：葉山キャンパス
- 第7回実践的大学院教育研究会 7月6日(金) 予定
- 研究者入門 7月14日(土)～16日(月)
開催場所：葉山キャンパス

編集委員会より

新しい年度が始まりました。平成22年度に発足しました学融合推進センターも3年目に入り、平田光司新センター長のもと、本学における教育研究活動の更なる発展の為、そして本学の理念の実現に向けて、様々な事業を展開していく予定です。今後とも学融合推進センターの活動にご支援、ご協力を宜しくお願いいたします。

また、今年度より学融合推進センターのホームページを一新いたしました。センターの活動に関する情報を提供するプラットフォームとして、情報を見やすく整理して掲載していく予定であります。是非、ご活用ください。

(文責：学融合推進センター 助教 見上公一)

学融合推進センター HP：<http://cpis.soken.ac.jp/htdocs/>